

✓ 水中の暗い場所を好み、足糸で基質に付着し、団子状に固まって生息している。



開水路の目地部分

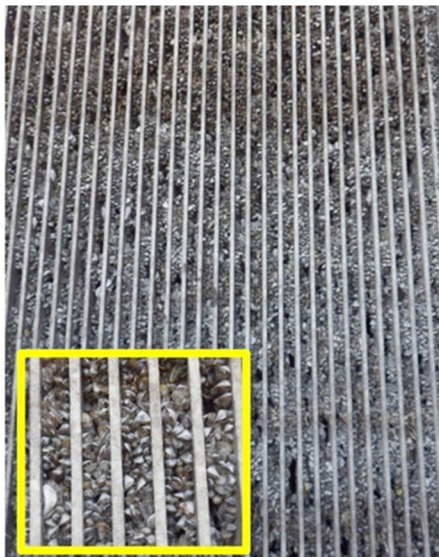


給水栓

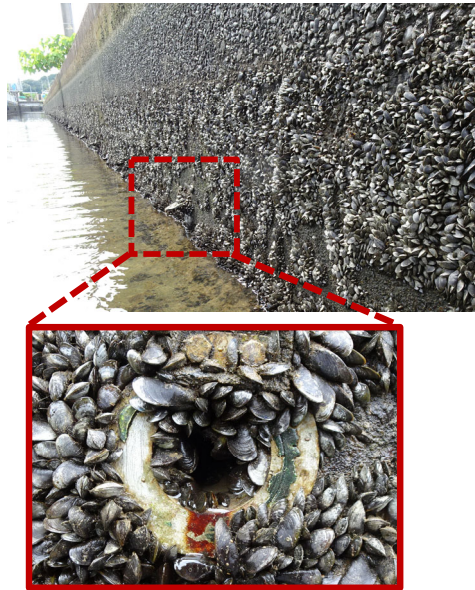


(※左枠内の拡大写真)

取水樋門等の流れが弱まる場所



貯水池の取水工
バースクリーン



水路壁面に付着した様子
(※壁面のウィープホールへの詰まり状況を拡大)



水路トンネル壁



棒の突起部に団子状に付着した様子
(左：竹、右：倒木)

見分け方・生活史

カワヒバリガイの見分け方

カワヒバリガイの同定ポイント

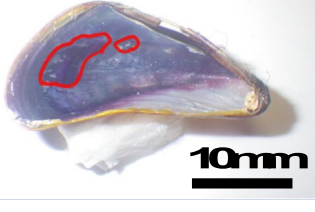
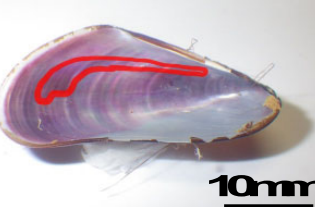
【殻の色】

- ・ 成長個体：殻の外側が黄緑色をした暗褐色
- ・ 稚貝：後方背側が濃い紫色、前方腹側が黄土色

【筋痕】

- ・ 殻の内側の筋痕が分離している

国内の淡水で確認されている固着性二枚貝はカワヒバリガイのみ（2025年3月現在）であるため、真水を扱う水利施設で似た貝が確認された場合カワヒバリガイと判断することができます。

貝の種類	殻の色（成長個体）	殻の色（稚貝）	筋痕
カワヒバリガイ		腹側の色が薄い  (地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所	 10mm
コウロエン カワヒバリガイ (上記とは別種の汽水性) ※関東・中部以西の 沿岸部に分布 ※本種は特定外来 生物ではない		 (地独) 大阪府立環境農林水産総合研究所	 10mm

カワヒバリガイの生活史

生活史

【繁殖期】 6～10月

【成長過程】 卵 → 浮遊幼生 → 稚貝 → 成貝

【成長速度】 10-15mm/年 【寿命】 3年

【生息に適する環境】 水温：0～35℃、DO：0.5mg/L、塩分耐性15‰

【生活史】

カワヒバリガイは生まれてから10-20日間は0.1mm程度の浮遊幼生となって水中を漂う。その後コンクリートや岩などの固い基質に定着して成長する

（右図の写真A：浮遊幼生、B：成体、C：成体が岩などに付着する“足糸”）

